



こぎね 小札

(待山遺跡出土遺物、一宮町教育委員会所蔵)

【古墳時代】

まちやまいせき いちのみやまちせいぶ むつざわまちよ こふんじだい いせき しゅうへん こふん
待山遺跡は一宮町西部、睦沢町寄りにある古墳時代の遺跡です。周辺には古墳

まちやまこふんぐん
(待山古墳群) もあります。

へいせい ねん ねん ほいくえん
平成27年から 28年にかけて、どろんこ保育園

けんせつ ともな いちぶ はくつちようさ しゅつど
の建設に伴って一部が発掘調査され、出土した

こうこしりよう まちやまいせきしゅつどいぶつ れいかずがんねん
考古資料は「待山遺跡出土遺物」として、令和元年

(2019)に町の指定文化財に指定されています。

しゅつど とくちようてき こふんじだい
出土した資料で特徴的なものとして古墳時代

こぎね あ こぎね よろい いちぶ
の「小札」が挙げられます。「小札」は鎧の一部

こんかい はくつちようさ じゅうきよあと まい
ですが、今回の発掘調査では住居跡から 1枚の

ひも きぬ じょうたい はっけん
み、紐 (おそらく絹) をまかれた状態で発見さ

れました。つまり よろい つか
れしました。つまり 鎧として使われたわけではな

く、さいしてき い み あ も しょう
く、祭祀的な意味合いを持たせて使用されたもの

ではないかと かんが じゅうきよ
ではいかと 考えられます。つまり、住居の

はいぜつ いえ こわ ともな じちんてき い み
廃絶 (家を壊す) に伴って、地鎮的な意味をもつ

お
て置かれたものではないかといわれています。



写真：小札

実物の大きさ：78mm×30mm

